

第三者評価意見 黒龍江省三江平原商品穀物基地開発計画

中国上海社会科学院
農村及び農業発展研究センター
主任
張 同林

計画の妥当性

黒龍江省は中国のなかでも重要な食糧生産基地であり、2006年黒龍江省の食糧生産量は3346.4万トンで、中国食糧総生産量の6.73%を占めている。1990年代後半から、中国経済の急速な発展に伴い、南東沿海部の農地から工業用地や宅地への大量転用により食糧作付面積が減少、一方、中西部住民の沿海地域への移住が進むことによる南東部の食糧需要量が増えて来るため、食糧地域需給バランスが崩れ、従来の“南糧北調”から“北糧南運”へと転換してきた。そのため、東北地方に位置する食糧主産地の黒龍江省及び三江平原は、二十一世紀初期における中国の食糧安保戦略の中でも重要性が益々高まる。

本事業は、中国輸出入銀行を介したツーステップローンの枠組みで、黒龍江省三江平原農懇区商品糧基地建設項目計画の中のサブプロジェクトに資金供給をおこなうことにより、灌漑整備、排水整備などが不十分で土地生産性が低かった同地域で、洪水防御、灌漑、土地改良と農業基盤整備に重点を置き、中低生産田の改良をおこなうほか、食糧生産品の高付加価値化を図り、もって中国の食糧安全保障の確保、地域所得格差是正に寄与することを目的とし、黒龍江省三江平原商品糧基地整備及びその地域の食糧増産及び土地生産性向上、などの面から見て、妥当性が極めて高い。

このように、本事業は、食糧需要の増加を見越して計画されていること、食糧生産地として重要な地域を対象として実施されていることから、中国の国家政策とも合致している。

効果とインパクト

1996年に開始、2002年完成した黒龍江省三江平原商品穀物基地開発事業は、中国東北地方の商品糧基地の育成に対する重要な役割を果たした。中低産田改良の面から見ると、本事業で導入した機材を利用して灌漑などの水利施設、とりわけ排水面を整備することで、三江平原の有効灌漑面積は、1997年の53.54万ヘクタールから、2005年の83.38万ヘクタールへ増加し、55.73%を増えた。以前は土壤中に水分がたまりやすく、大豆、トウモロコシなどの作付けに適さなかった畑が、本事業による農地の乾燥化の結果、生産性を高めることにつながった。一方、2001年から2005年まで、中国上海市は農業灌漑事業へ7.33億元を投入したが、有効灌漑面積は26万ヘクタール前後に止まり、ほとんど増加していなかった。比較としては、本事業で実施された灌漑事業は、中国の他の地域で実施された灌漑事業に比べて、効率性がかなり高い。三江平原地域に適した方法は、砂漠地帯以外の中国の他の地域への適用を検討しても良いだろう。

生産性の面から見ると、本事業の実施によって三江平原地域の食糧生産性が速やかに増加してきており、本事業の増産効果は非常に顕著である。本事業実施前の1990年に、その地域の面積あたり食糧生産量は、1868キロ/ヘクタールであったが、本事業

実施後の2000年に、その地域の面積あたり食糧生産量は4477キロ/ヘクタールへ増加し、2005年に5389キロ/ヘクタールへと増加してきて、その地域の食糧生産性が15年間で約2倍増加した。それに対して、2005年に黒龍江省全体の平均面積あたり食糧生産量は、わずか3574キロ/ヘクタールであり、三江平原地域より1815キロ/ヘクタール少ない。2005年の中国の平均面積あたり食糧生産量は4642キロ/ヘクタールであり、三江平原地域より747キロ/ヘクタール少ないため、三江平原地域の食糧生産性はかなり高いと言える。現在、全国の穀物生産に占める黒龍江省の割合は1995年の5.47%、2000年には5.51%と徐々に増加し、2006年には6.73%へと急拡大しているが、三江平原農懇区の作付面積は黒龍江省全体の約19パーセントであり、収穫量では約33パーセントであるため、三江平原地域は黒龍江省の重要な食糧生産基地となっている。

次に、農業生産性の上昇によるインパクトとして、農業従事者の生活水準が向上した、地域間所得格差の是正効果をもたらした。“九五”期間、三江平原地域における中低産田改造及び農業総合開発の実施による食糧生産量は“八五”期間より57.3%増加し、その地域の一人当たり収入は92.5%を増加した。現在、三江平原農懇区では、耕地は3500万畝(15畝=1ヘクタール)があり、人口は158.6万人で就労者は74.4万人、内農業従事者は35万人である。1990年代の農業及びその他の産業開発によって、2005年にこの地域の一人当たり総生産は2100ドル(約15000元)であり、一人当たり平均収入は6179元であるため、黒龍江省全体農家の平均収入水準及び全国農家の平均収入水準より約3000元を高い。

1950年代から2002年まで、三江平原地域では食糧の増産を目的とする4回の農業開発を行った。効果から見ると、大量の日本円貸金を利用して、三江平原で水田灌漑を中心とする第4回農業開発(1996年 - 2002年)の経済効果は前三回よりかなり良い成果があったと評価されている。しかし、三江平原地域は、中国では珍しい沼地である一方、ツルなどの貴重な野生動物の生息地として世界でも有名である。五十年以上にわたって環境保全対策を行わないまま大規模農業開発を行ったため、その地域では、沼地減少及びその機能退化、野生動物の生存環境が破壊され、生物多様性が低下、旱害頻繁、などの大きな環境被害が出てきた。環境保全を重視する持続可能な農業などの産業開発を行い、沼地機能強化及び林地育成、などの環境保全対策を取り、環境を改善し、環境と人間とふれあい環境保全型社会を作るのが三江平原開発に対する重要な課題となっている。最近、三江平原の環境保全問題が国際社会に重視され、中国政府、黒龍江省及び三江平原地域、またアジア開発銀行などの政府と民間組織が三江平原環境保全に大量に投資し、国際社会の共同努力によって、三江平原を豊饒で美しい地域とすることが可能であると信じられている。

資料出典：

1. 聂振邦 編著『2007中国食糧発展報告』、经济管理出版社、2007年。
2. 上海市統計局・上海市農業委員会編『2006上海郊外統計年鑑』、2006年。
3. 人民ネット(<http://www.people.com.cn/>) 或いは『黒龍江日報』、2000年11月30日。
4. 李俊「黒龍江省農懇区精細農業実施の実践と思考」、2007年11月8日。